

3 愛媛県のイメージ

問26 現在の愛媛県のイメージ

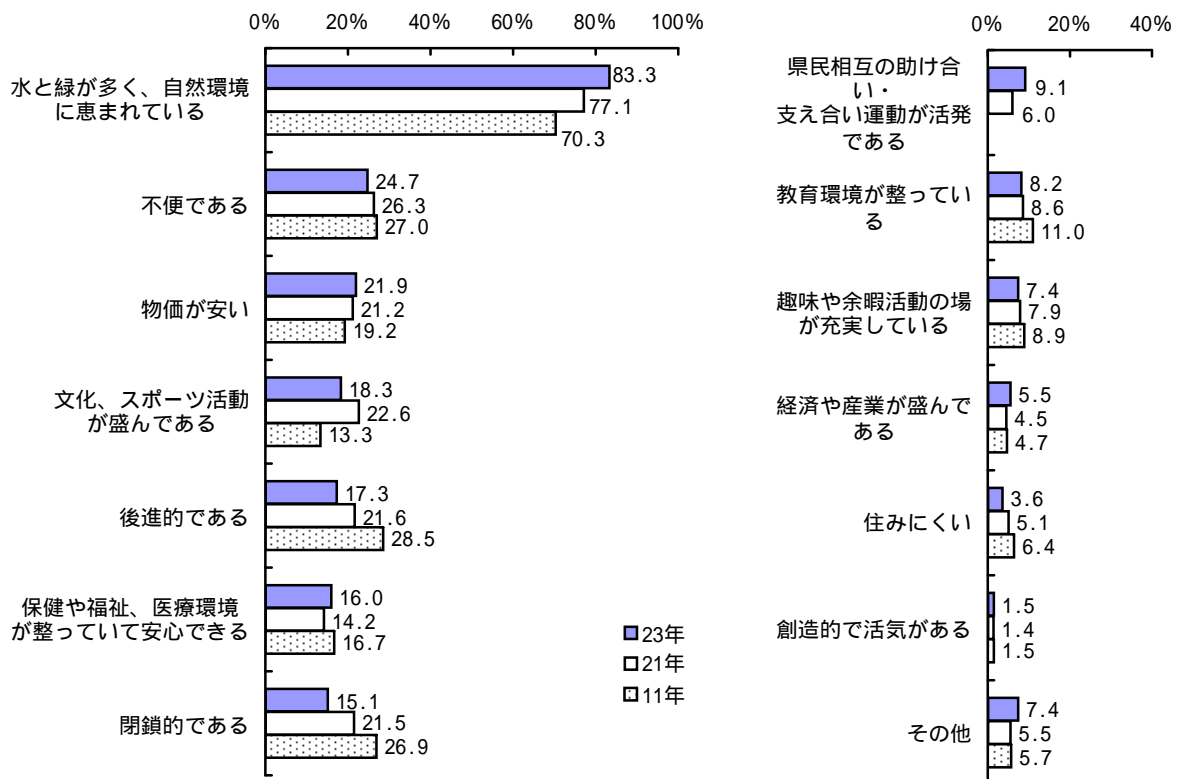
あなたは、今、愛媛県をどんなところと思っていますか。あなたのイメージに近いものを次の中から三つまで選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	水と緑が多く、自然環境に恵まれている	83.3
2	物価が安い	21.9
3	経済や産業が盛んである	5.5
4	教育環境が整っている	8.2
5	保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる	16.0
6	趣味や余暇活動の場が充実している	7.4
7	文化、スポーツ活動が盛んである	18.3
8	創造的で活気がある	1.5
9	県民相互の助け合い・支え合い活動が活発である	9.1
10	後進的である	17.3
11	住みにくい	3.6
12	閉鎖的である	15.1
13	不便である	24.7
14	その他	7.4

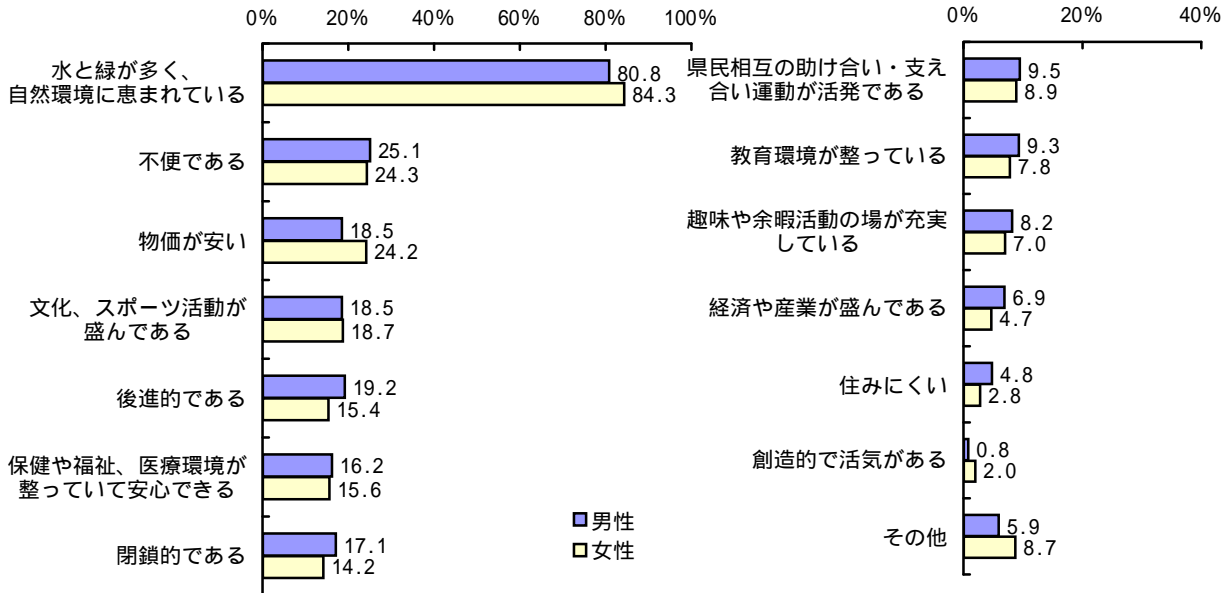
愛媛県はどんなところかイメージを聞いたところ、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が83.3%と特に多く、以下「不便である」(24.7%)、「物価が安い」(21.9%)、「文化、スポーツ活動が盛んである」(18.3%)、「後進的である」(17.3%)の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が6.2%増加(平成11年調査より13.0%増加)、「後進的である」と答えた人の割合が4.3%減少(平成11年調査より11.2%減少)、「閉鎖的である」と答えた人の割合が6.4%減少(平成11年調査より11.8%減少)、「県民相互の助け合い・支え合い運動が活発である」と答えた人の割合が3.1%増加している。



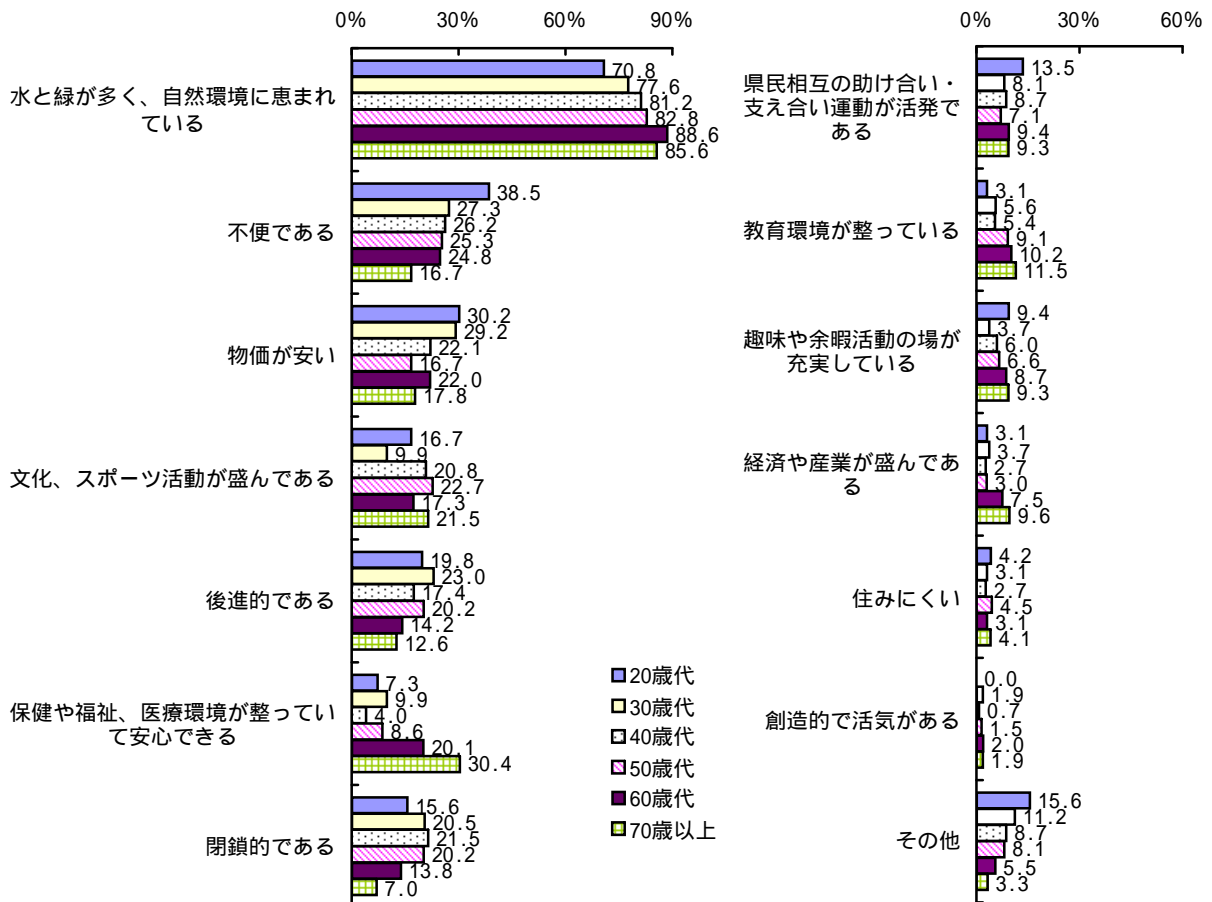
【性別】

性別にみると、男女共に「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が特に多くなっている。
 また、「後進的である」、「閉鎖的である」などは男性の方が多くなっており、「物価が安い」などは女性の方が多くなっている。
 この他、前回調査と比較すると「後進的である」と答えた男性の割合が9.2%減少している。



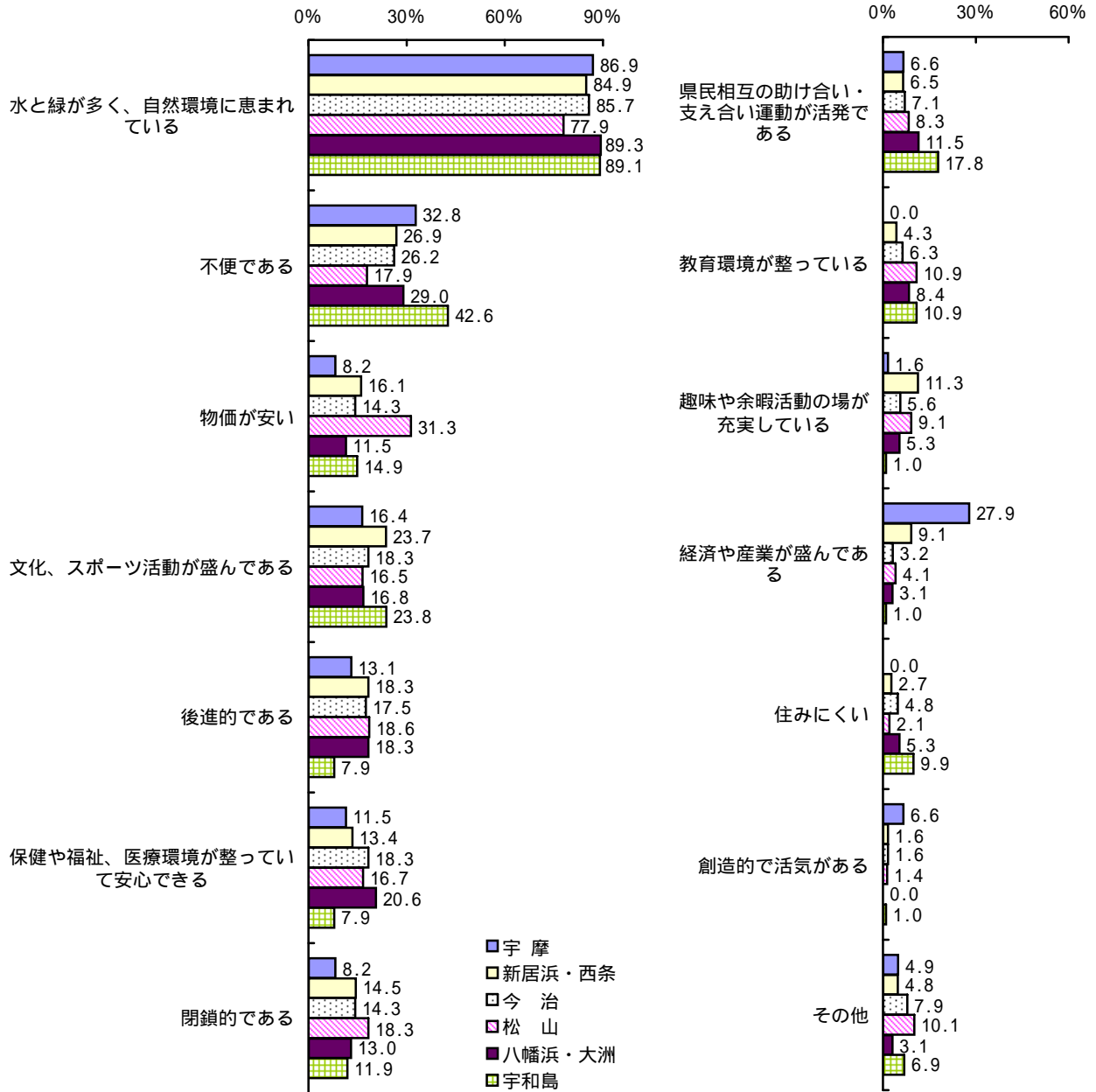
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が特に多くなっている。
 また、「不便である」は20歳代（前回調査より6.0%増加）で他の年齢層に比べると多く、「物価が安い」は30歳代以下で多く、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」は60歳代以上で他の年齢層に比べて多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が特に多くなっているが、松山圏域では77.9%と他の圏域と比較して少なくなっている。
 また、「不便である」と答えた人の割合は宇和島圏域で他の圏域と比較して多く、「物価が安い」は松山圏域で多く、「文化・スポーツ活動が盛んである」は新居浜・西条圏域及び宇和島圏域で多く、「県民相互の助け合い・支え合い運動が活発である」は宇和島圏域で多く、「経済や産業が盛んである」は宇摩圏域で特に多くなっている。
 この他、前回調査と比較すると、八幡浜・大洲圏域では「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」が11.4%増加している。

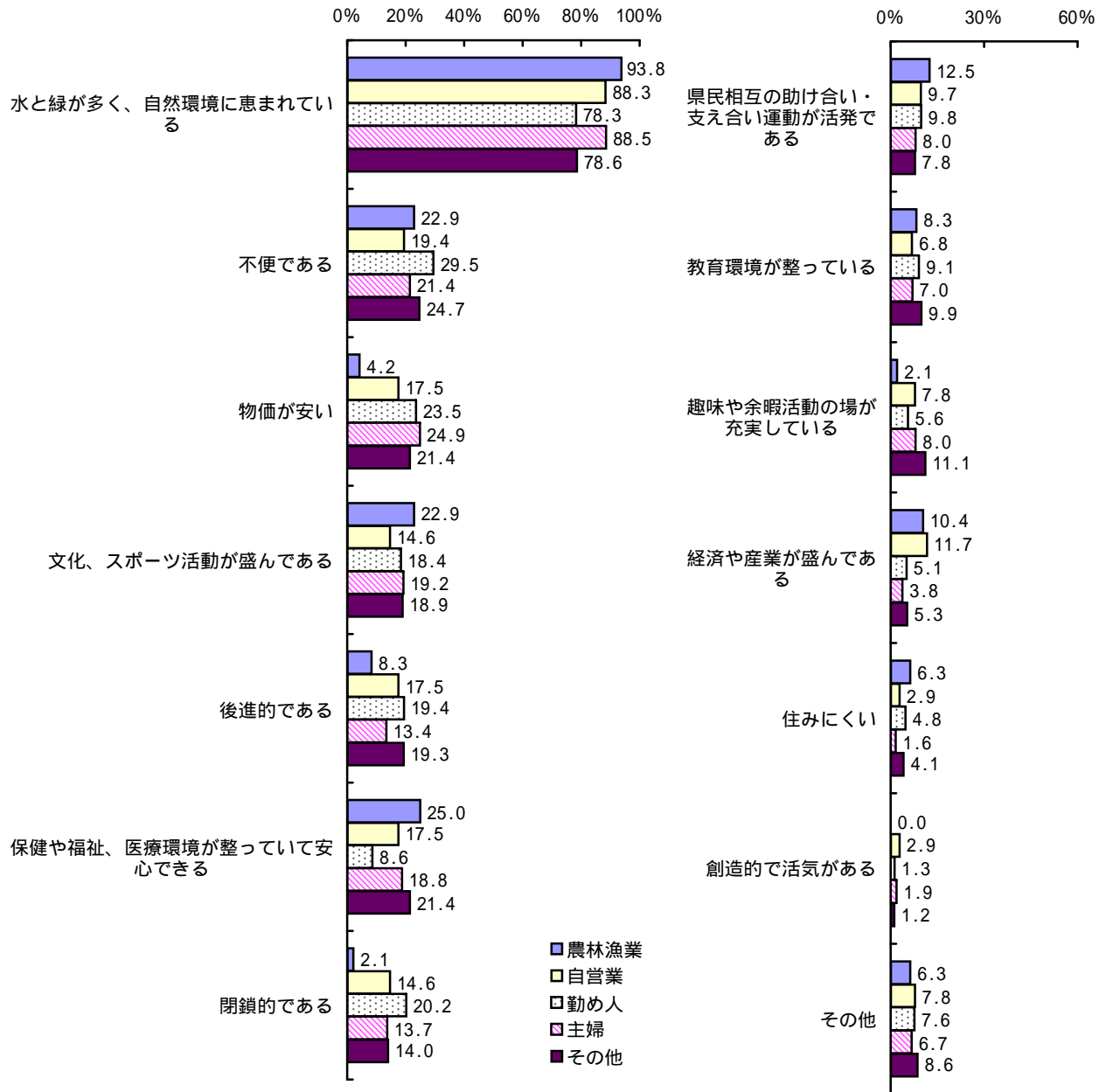


【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が多くなっている。

また、「不便である」と「閉鎖的である」と答えた人の割合は、勤め人で他の職種と比較して多くなっている。

この他、農林漁業では、他の職種と比較して「文化、スポーツ活動が盛んである」、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」、「県民相互の助け合い・支え合い運動が活発である」が多く、「物価が安い」、「後進的である」、「閉鎖的である」、「趣味や余暇活動の場が充実している」が特に少ない。



問27 将来なっしてほしい愛媛県のイメージ

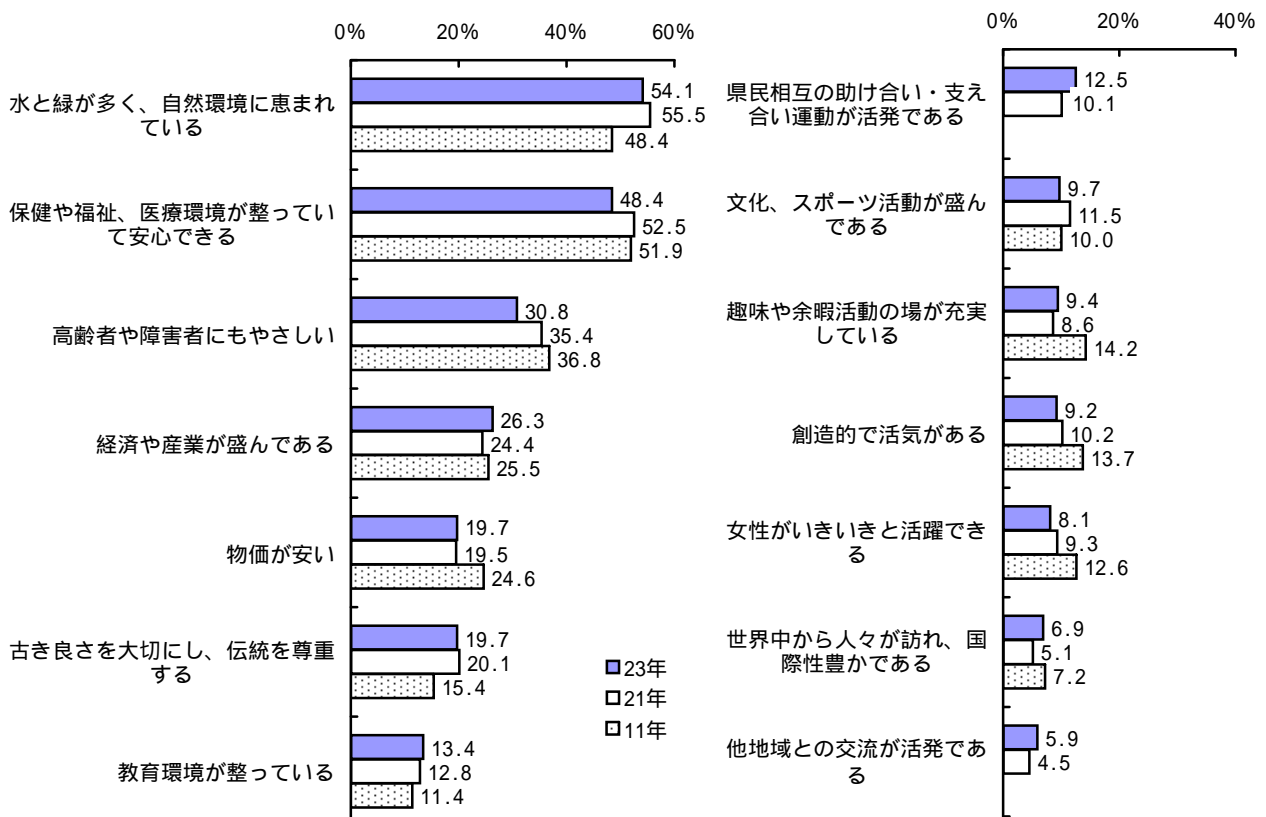
また、今後、愛媛県のあるべき姿について、あなたのイメージに近いものを次の中から三つまで選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	水と緑が多く、自然環境に恵まれている	54.1
2	物価が安い	19.7
3	経済や産業が盛んである	26.3
4	教育環境が整っている	13.4
5	保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる	48.4
6	趣味や余暇活動の場が充実している	9.4
7	文化、スポーツ活動が盛んである	9.7
8	創造的で活気がある	9.2
9	県民相互の助け合い・支え合い活動が活発である	12.5
10	古き良さを大切にし、伝統を尊重する	19.7
11	他地域との交流が活発である	5.9
12	世界中から人々が訪れ、国際性豊かである	6.9
13	高齢者や障害者にもやさしい	30.8
14	女性がいきいきと活躍できる	8.1
15	その他	2.0

愛媛県の今後あるべき姿のイメージを聞いたところ、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が54.1%、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」が48.4%で特に多く、以下「高齢者や障害者にもやさしい」(30.8%)、「経済や産業が盛んである」(26.3%)、「物価が安い」(19.7%)、「古き良さを大切にし、伝統を尊重する」(19.7%)の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」と答えた人の割合が4.1%減少しているほか、「高齢者や障害者にもやさしい」は4.6%減少(平成11年調査より6.0%減少)している。

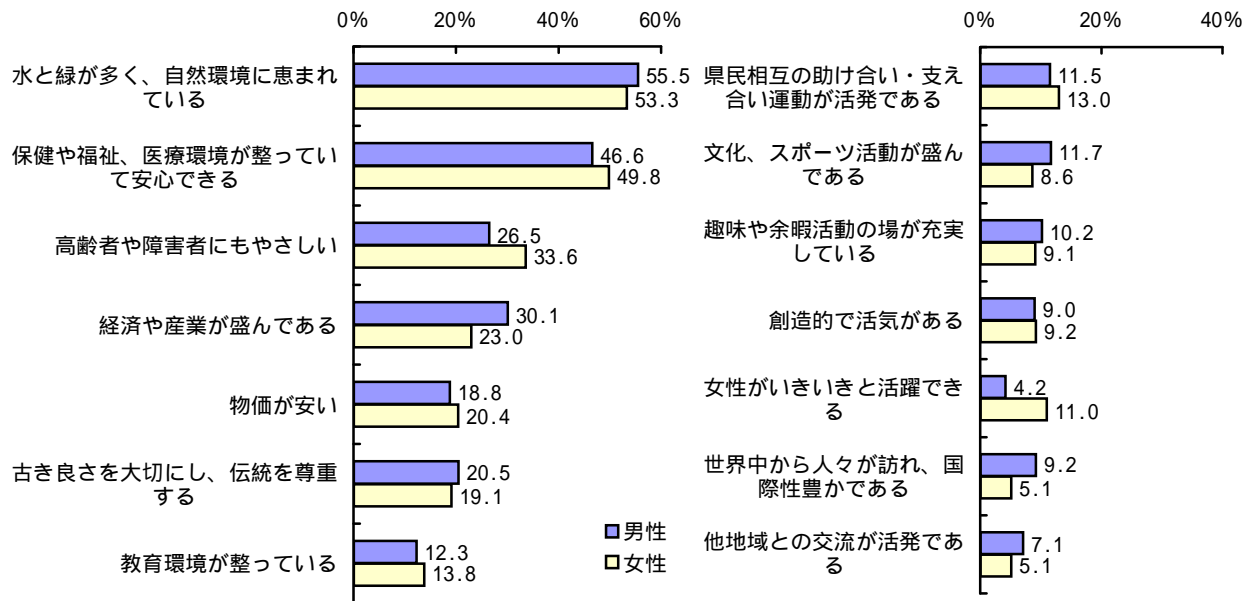


【性別】

性別にみると、男女共に「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」、「高齢者や障害者にもやさしい」、「女性がいきいきと活躍できる」などは女性の方が多くなっており、「経済や産業が盛んである」、「文化、スポーツ活動が盛んである」などは男性の方が多くなっている。

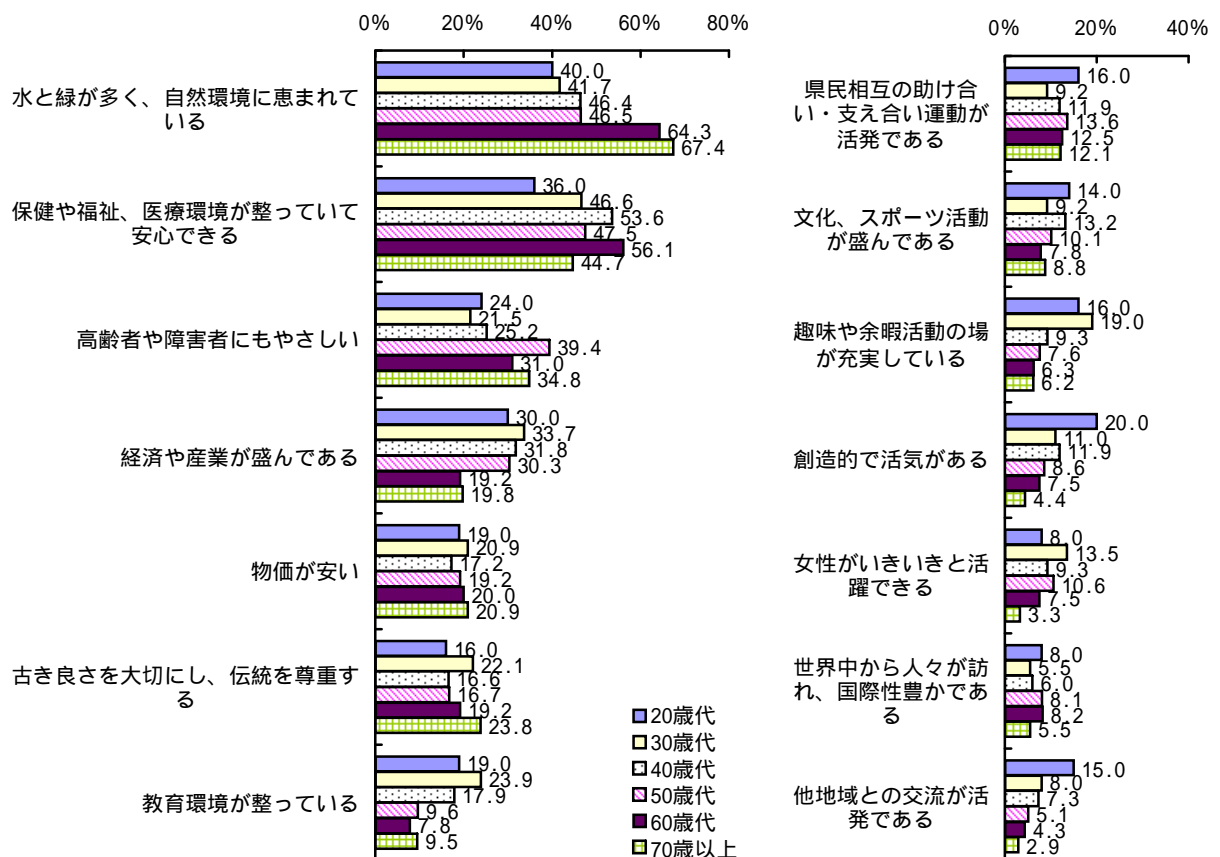
この他、前回調査と比較すると、男性において「経済や産業が盛んである」が5.4%増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代及び60歳代以上では「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が最も多く、30歳代から50歳代では「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」が最も多くなっている。

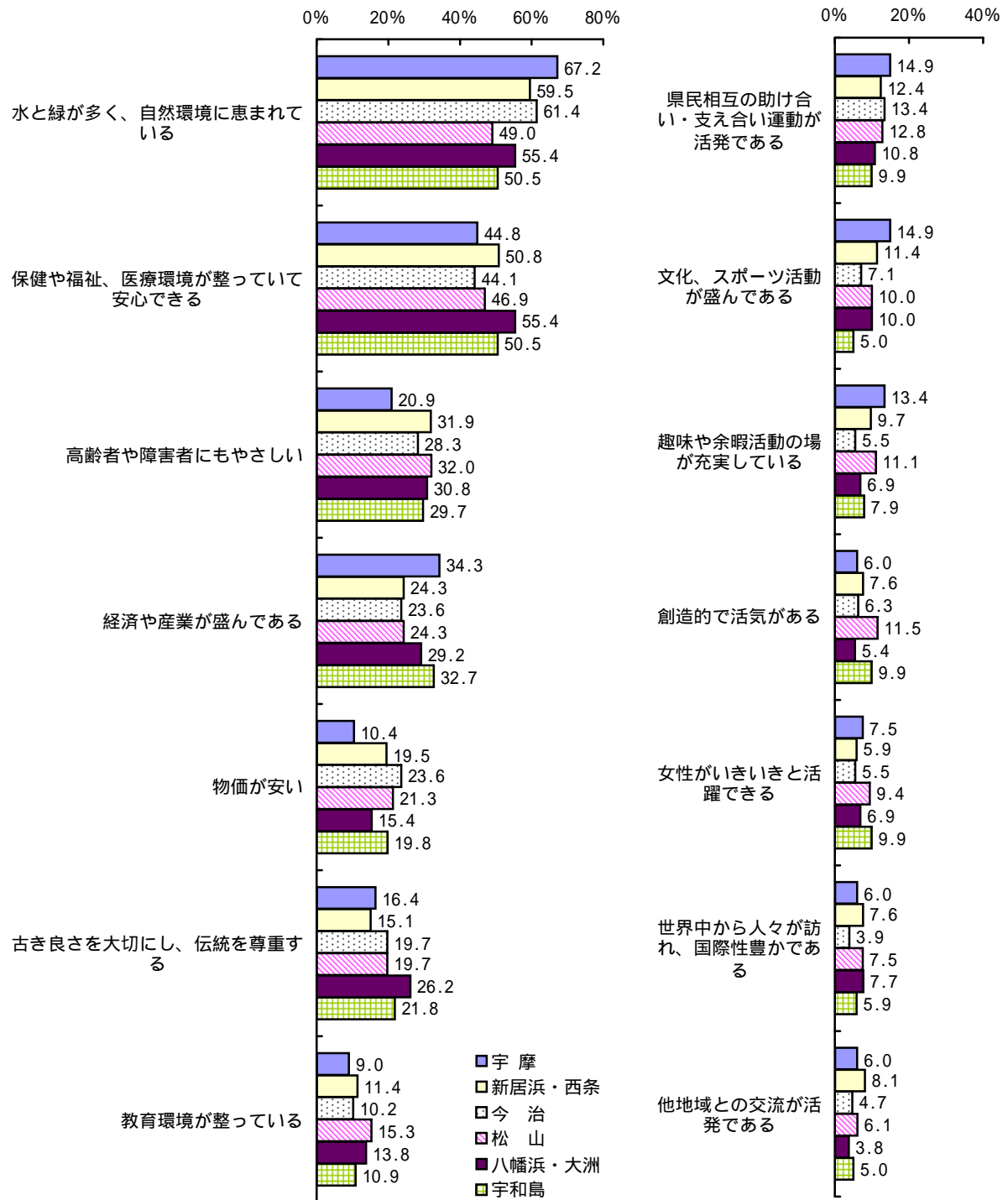
また、「高齢者や障害者にもやさしい」と答えた人の割合は50歳代以上で他の年齢層と比較して多く、「経済や産業が盛んである」は50歳代以下で多く、「教育環境が整っている」は30歳代で多く、「創造的で活気がある」は20歳代特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域、新居浜・西条圏域、今治圏域及び松山圏域では「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が最も多くなっており、中でも宇摩圏域で前回調査より20.4%増加している。八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では同項目と「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」が同率になっている。

また、八幡浜・大洲圏域においては、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」及び「古き良さを大切にし、伝統を尊重する」が他の圏域と比較して多くなっている。

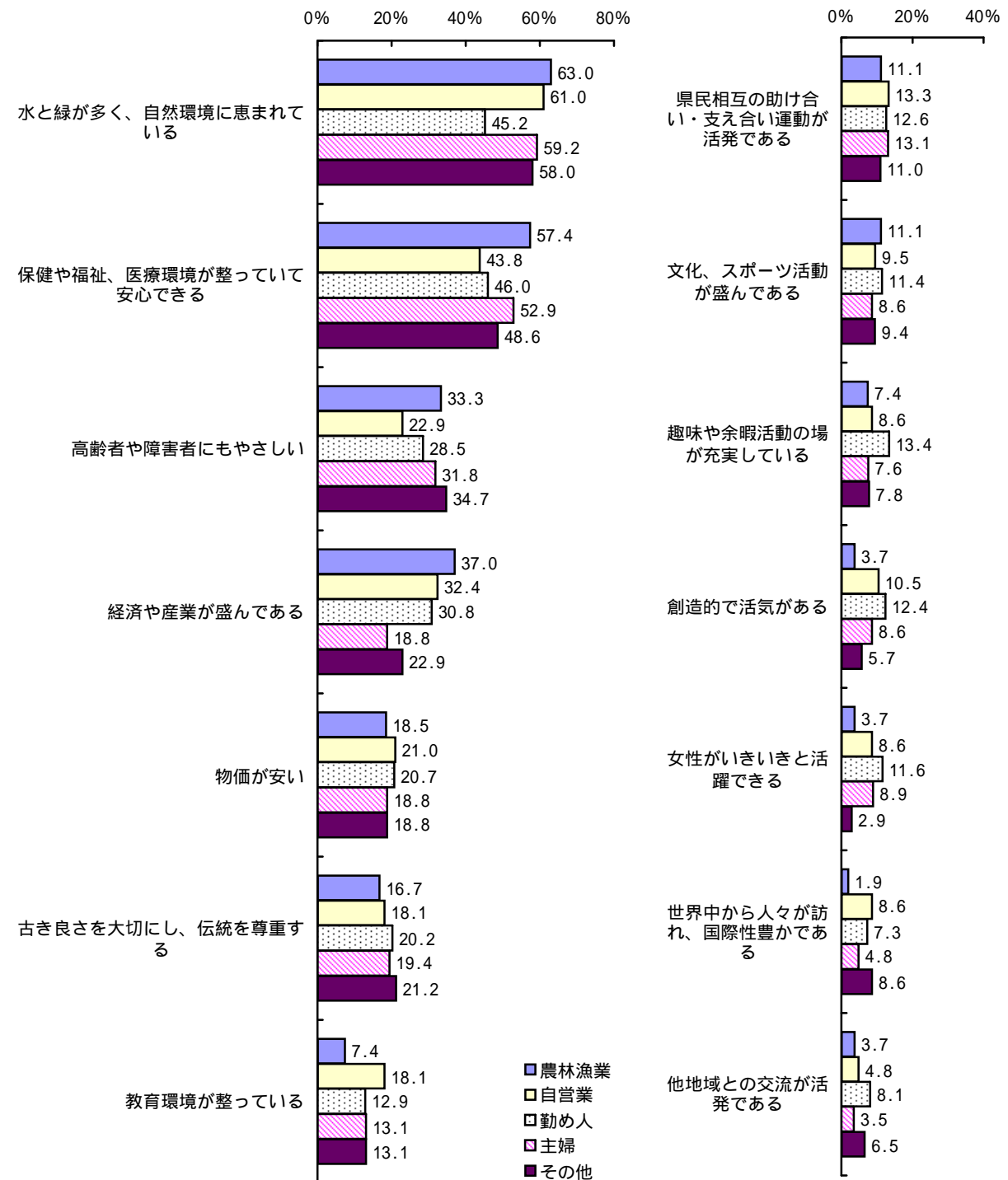


【職業別】

職業別にみると、勤め人以外の職種で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が最も多くなっている。勤め人では「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」が最も多くなっているが、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」とほぼ同率である。

また、「経済や産業が盛んである」は農林漁業で、「教育環境が整っている」は自営業で他の職種と比較して多くなっている。

この他、前回調査と比較すると、「保健や福祉、医療環境が整っていて安心できる」と答えた人の割合が自営業で10.1%減少し、「経済や産業が盛んである」は農林漁業で9.7%増加、「古き良さを大切に、伝統を尊重する」は農林業で15.1%減少している。



4 県政への要望

問28 県政への要望

今後県政を進めていくうえで、あなたが特に力を入れてほしい施策は何ですか。次の（A）、（B）、（C）の中から一つずつ選んで番号を で囲んでください。

(%)

(A) 産 業

1	農林業の振興	13.1
2	水産業の振興	2.6
3	商工業の振興	6.5
4	中小企業対策	14.8
5	観光の振興	9.2
6	雇用対策	39.5
7	道路整備	12.4
8	その他	1.8

(B) 生活環境

1	社会福祉の充実	27.4
2	子育て支援対策	11.2
3	医療、保健衛生機能の拡充	24.9
4	ボランティア活動の活性化	1.2
5	物価・消費者保護対策	14.3
6	公害防止対策、自然環境の保全	5.4
7	上・下水道、ゴミ処理施設の整備	4.5
8	交通安全対策	2.7
9	犯罪防止対策	4.4
10	消防、防災対策	2.6
11	その他	1.4

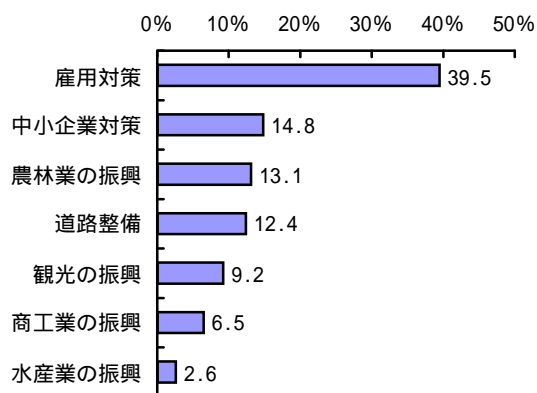
(C) 教 育

1	学校教育の充実	29.3
2	家庭教育の充実	10.7
3	社会教育の充実	22.1
4	青少年の健全育成	18.8
5	芸術、文化の振興	10.3
6	スポーツ、レクリエーション活動の助長	7.1
7	その他	1.7

今後、県政に望む施策について、(A)産業、(B)生活環境、(C)教育の3点に分けて質問した結果は、次のとおりである。

《産業面》

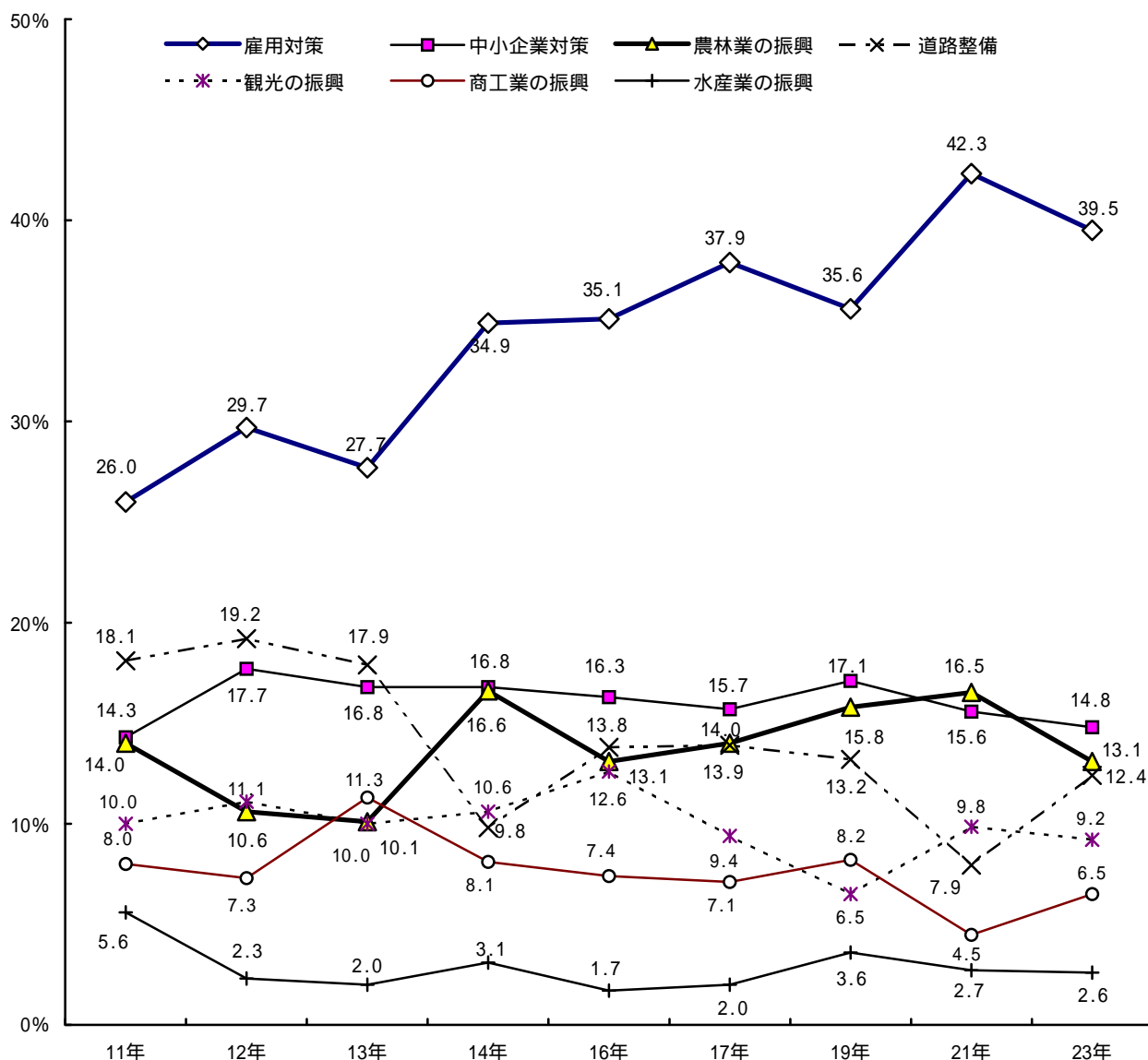
産業面で特に力を入れてほしいこととしては、「雇用対策」と答えた人の割合が39.5%と特に多く、以下「中小企業対策」(14.8%)、「農林業の振興」(13.1%)、「道路整備」(12.4%)の順となっている。



【経年変化】

経年変化をみると、「雇用対策」と答えた人の割合が前回調査と比較して2.8%減少しているが、平成11年調査と比較すると13.5%増加している。

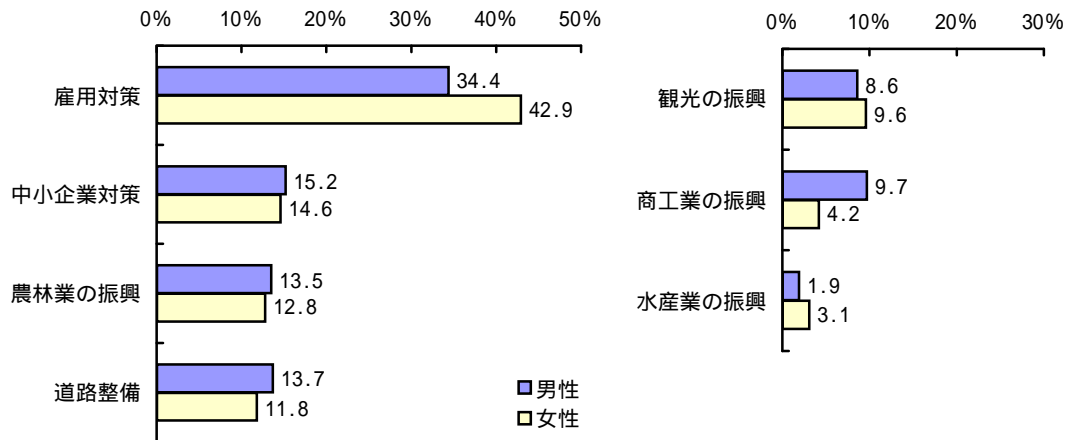
また、「道路整備」と答えた人の割合が、前回調査と比較して4.5%増加しているほか、「農林業の振興」は、3.4%減少している。



【性別】

性別にみると、男女共に「雇用対策」と答えた人の割合が最も多くなっており、特に女性（42.9%）の方が男性（34.4%）より8.5%も多くなっている。

また、「商工業の振興」と答えた人の割合は男性の方が多くなっているが、その他の項目においては、男女間に大きな差はない。

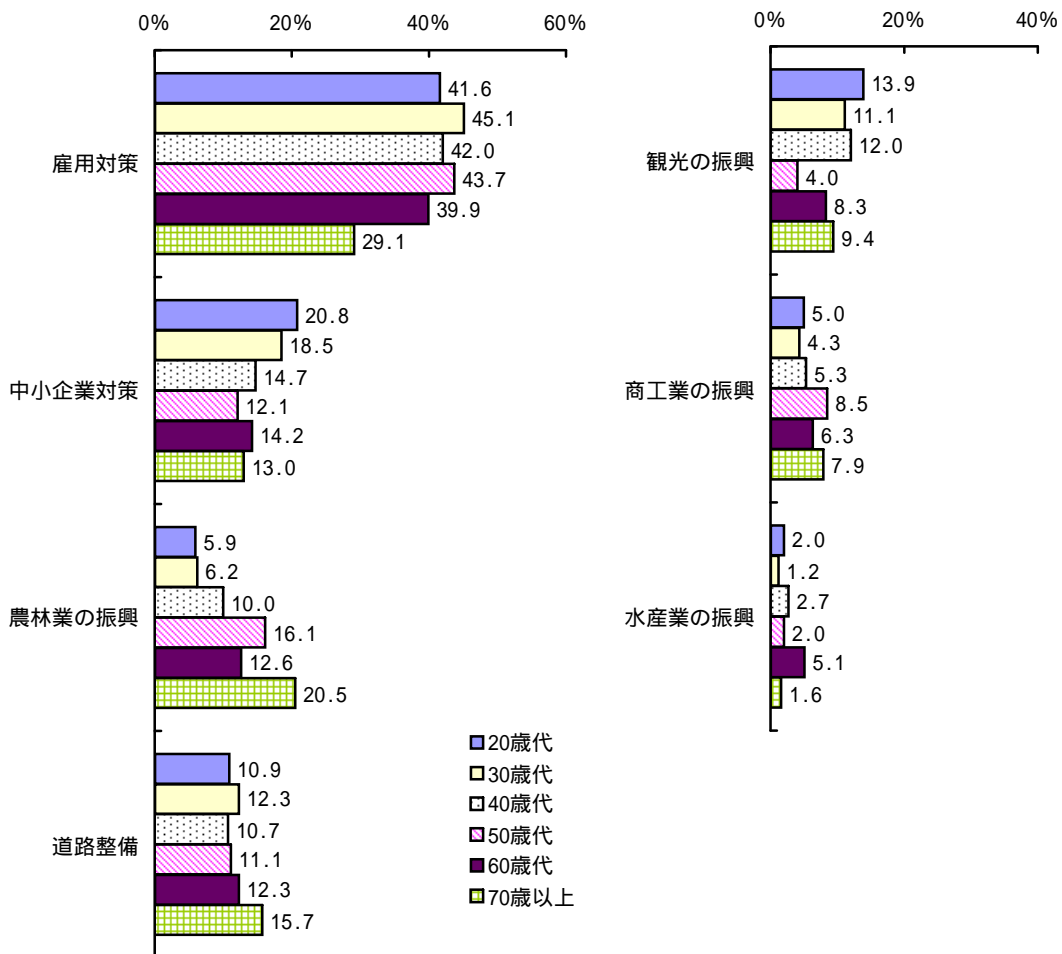


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「雇用対策」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、70歳以上では「雇用対策」と答えた人の割合は他の年齢層と比較して少ないが、逆に「農林業の振興」と答えた人の割合は多い。

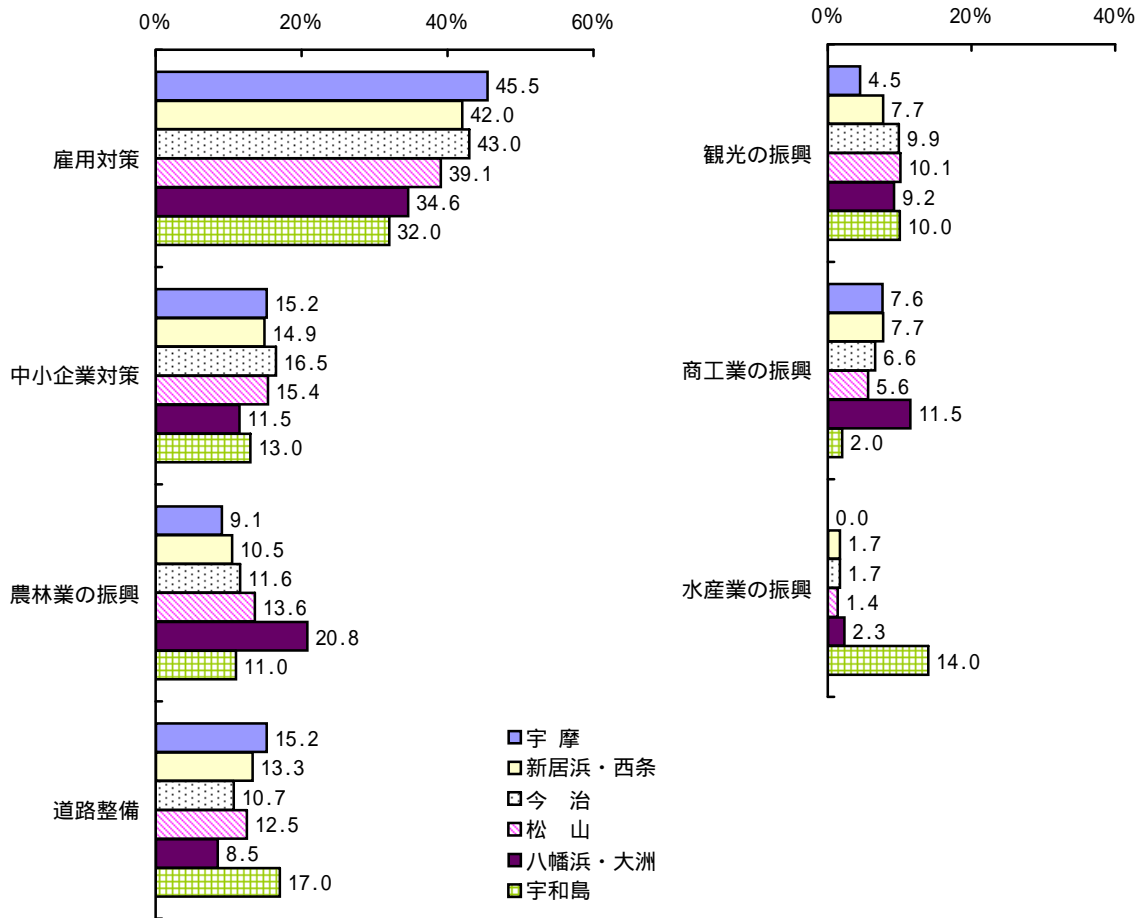
この他、前回調査と比較すると、「中小企業対策」と答えた人の割合が20歳代で6.0%増加し、「雇用対策」は40歳代で8.7%減少している。



【生活圏域別】

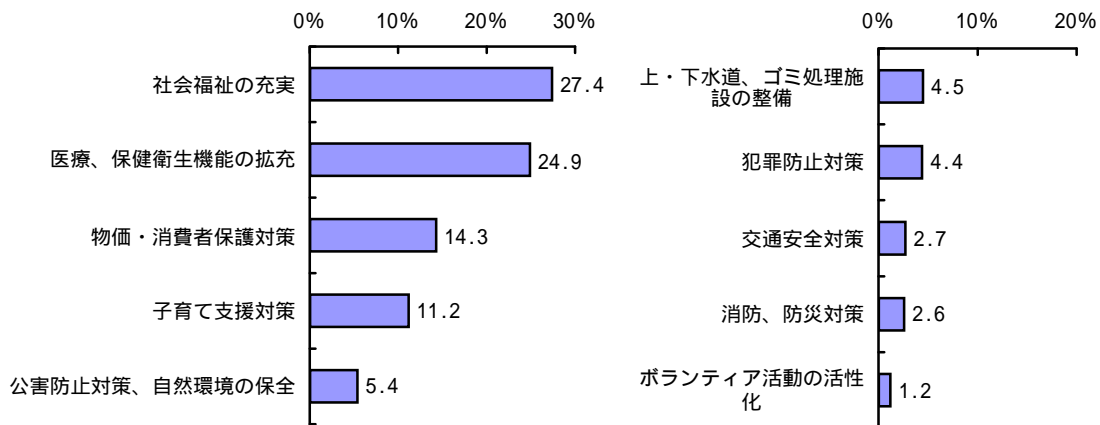
生活圏域別にみると、全ての圏域で「雇用対策」と答えた人の割合が最も多くなっており、前回調査との比較では、宇摩圏域で13.9%増加している。

また、「農林業の振興」及び「商工業の振興」と答えた人の割合は八幡浜・大洲圏域で、「水産業の振興」は宇和島圏域で他の圏域と比較して多くなっているほか、「道路整備」は全ての圏域で前回調査より増加している。



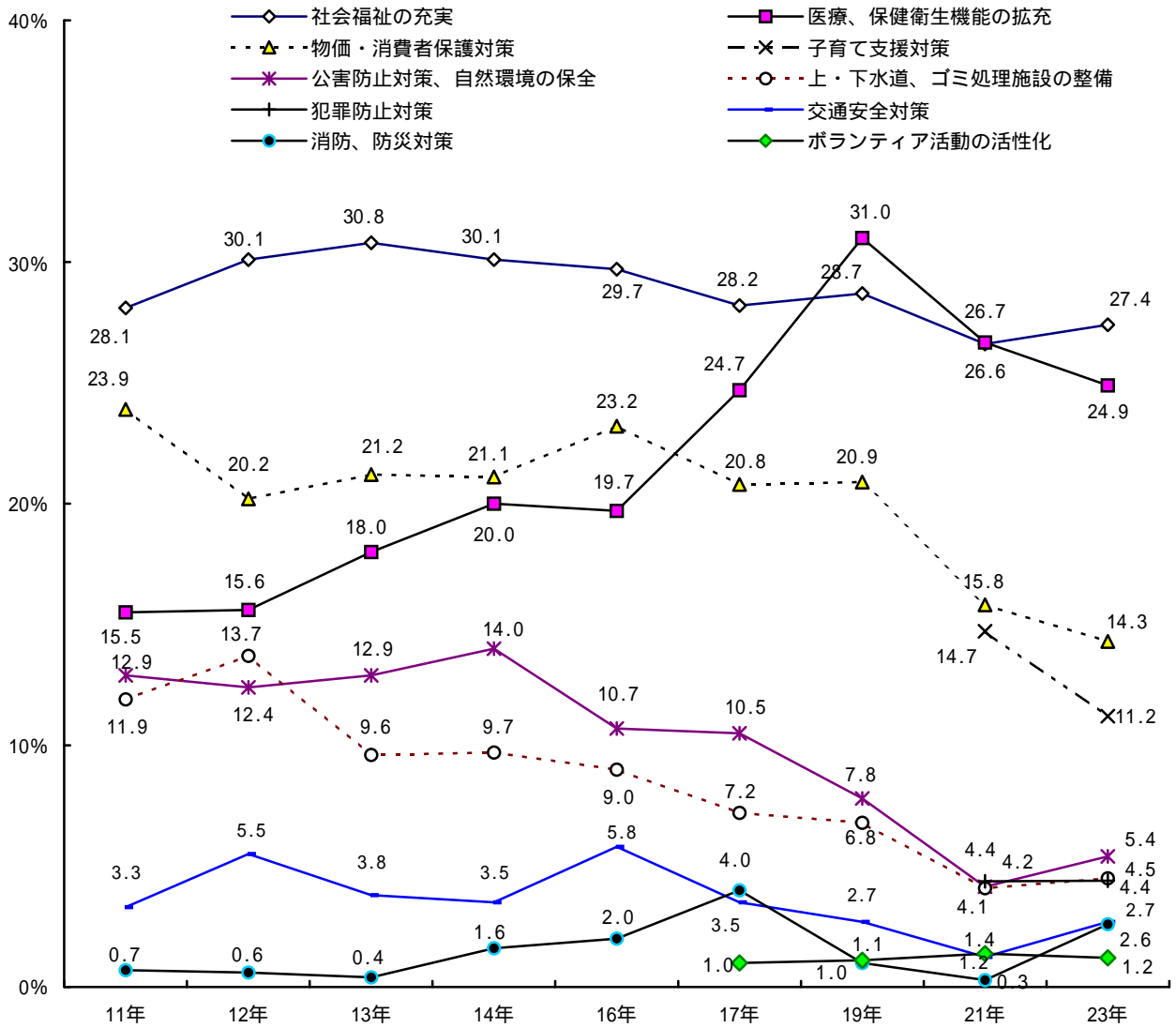
《生活環境面》

生活環境面で特に力を入れてほしいこととしては、「社会福祉の充実」と答えた人の割合が27.4%で最も多くなっており、以下「医療、保健衛生機能の拡充」(24.9%)、「物価、消費者保護対策」(14.3%)、「子育て支援対策」(11.2%)「公害防止対策、自然環境の保全」(5.4%)の順となっている。



【経年変化】

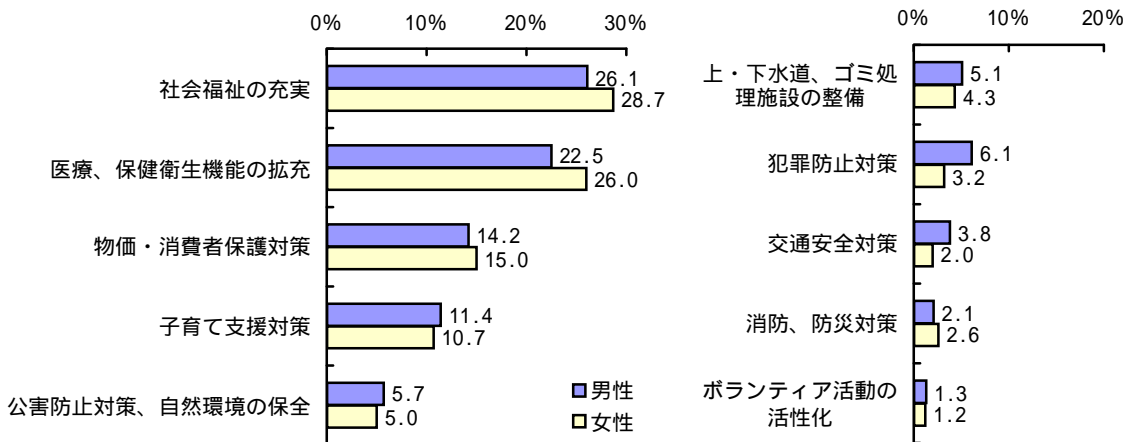
経年変化をみると、「医療、保健衛生機能の拡充」と答えた人の割合が、平成19年調査以降減少傾向にあり、ほぼ同水準の割合が続いている「社会福祉の充実」が第1位となった。



【性別】

性別にみると、男性も女性も「社会福祉の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

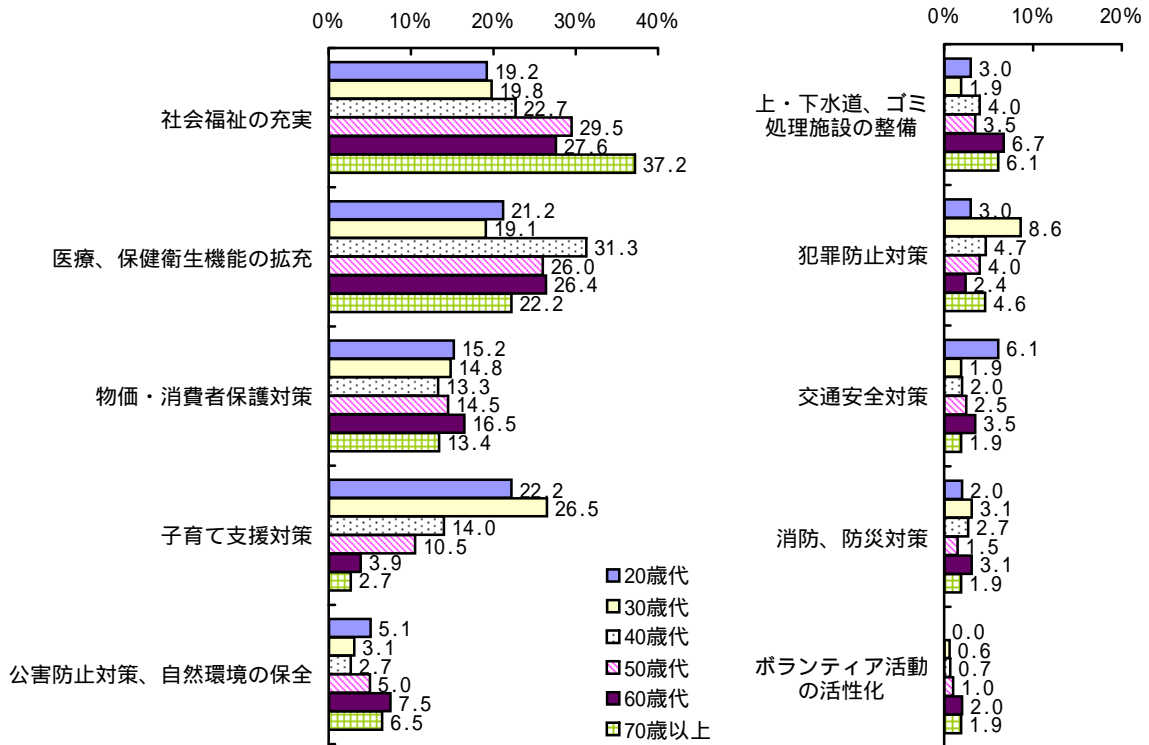
また、「犯罪防止対策」、「交通安全対策」は男性の方が多く、「社会福祉の充実」、「医療、保健衛生機能の拡充」は女性の方が多いが、その他の項目は男女間に大きな差はない。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代以下では「子育て支援対策」と答えた人の割合が最も多く、40歳代では「医療、保健衛生機能の拡充」と答えた人の割合が、50歳代以上では「社会福祉の充実」が最も多くなっている。

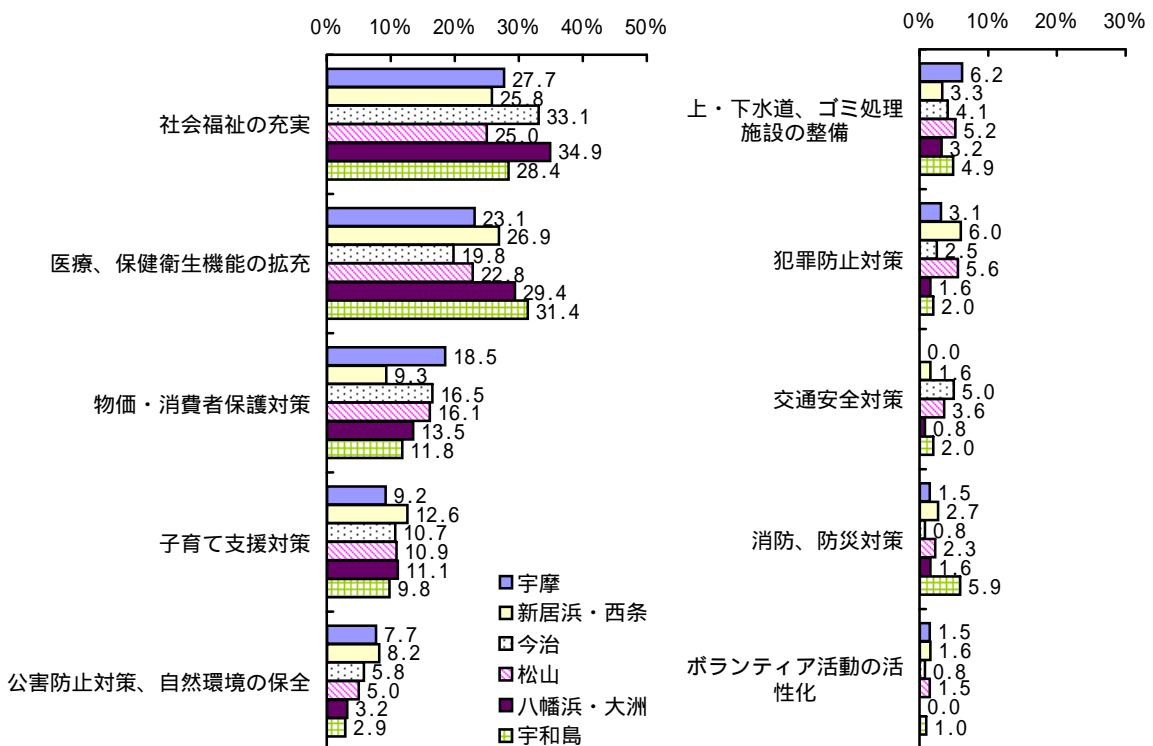
また、「犯罪防止対策」は30歳代で他の年齢層と比較して多く、「交通安全対策」は20歳代が多い。



【生活圏域別】

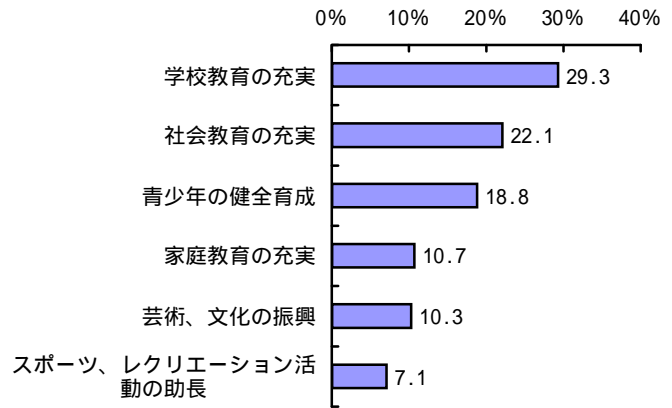
生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域及び宇和島圏域では「医療、保健衛生機能の拡充」と答えた人の割合が最も多く、その他の圏域では「社会福祉の充実」が最も多くなっている。

また、「消防、防災対策」と答えた人の割合は宇和島圏域で他の圏域と比較して多くなっている。



《教育面》

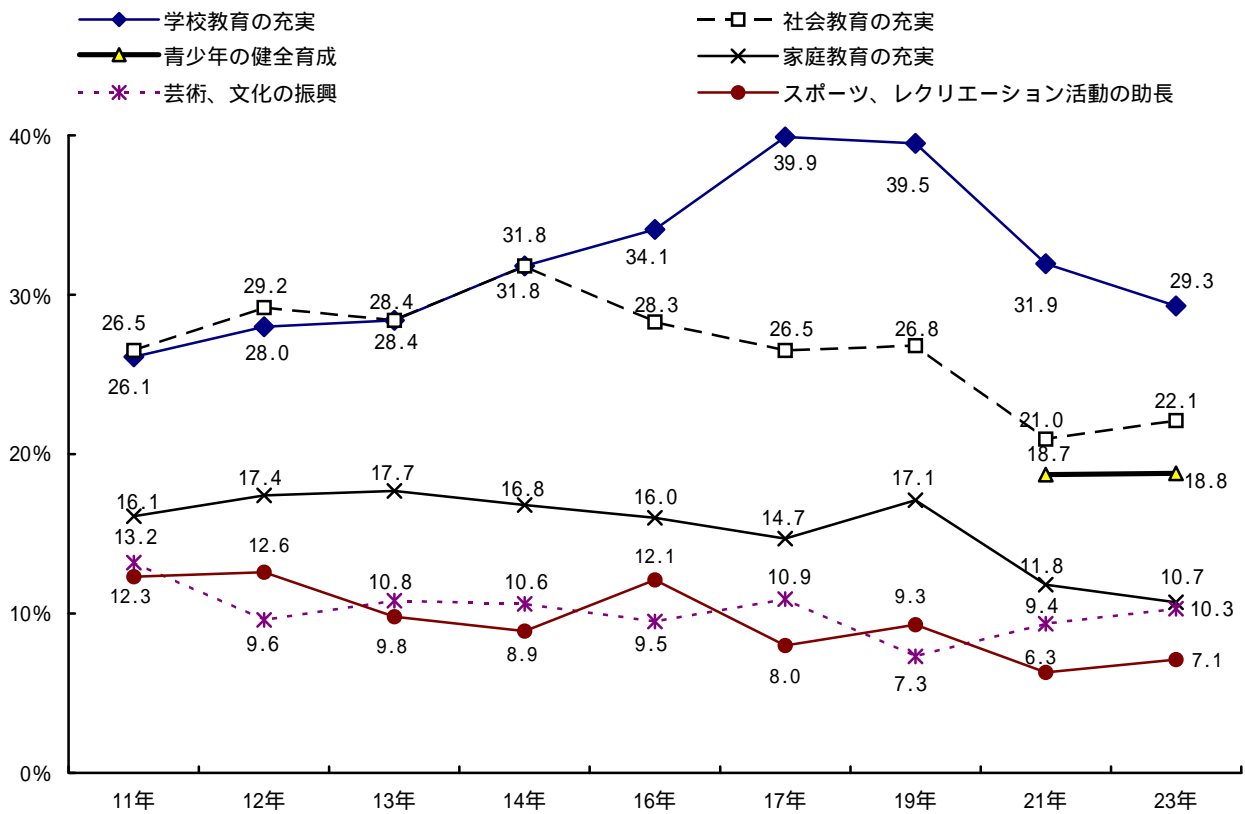
教育面で特に力を入れてほしいこととしては、「学校教育の充実」と答えた人の割合が29.3%で最も多く、以下「社会教育の充実」（22.1%）、「青少年の健全育成」（18.8%）、「家庭教育の充実」（10.7%）の順となっている。



【経年変化】

経年変化をみると、「学校教育の充実」と答えた人の割合が平成17年調査から減少傾向にあり、今回は前回調査より2.6%減少している。

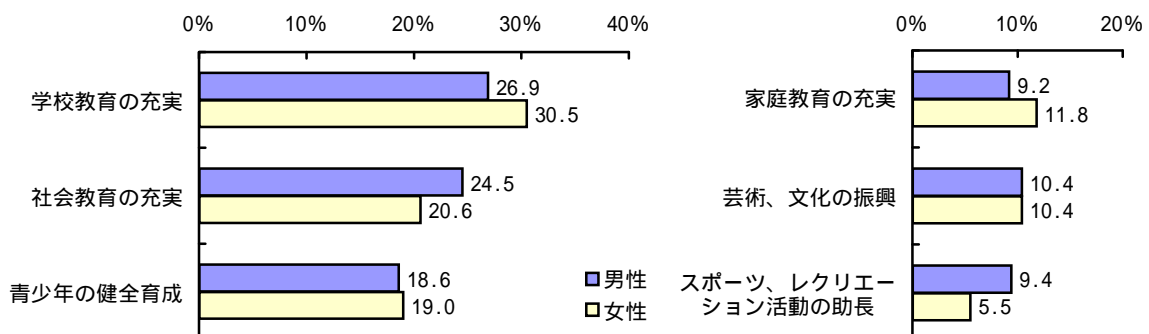
また、「家庭教育の充実」も減少傾向にあり、平成11年調査と比較すると5.4%減少している。



【性別】

性別にみると、男女共に「学校教育の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

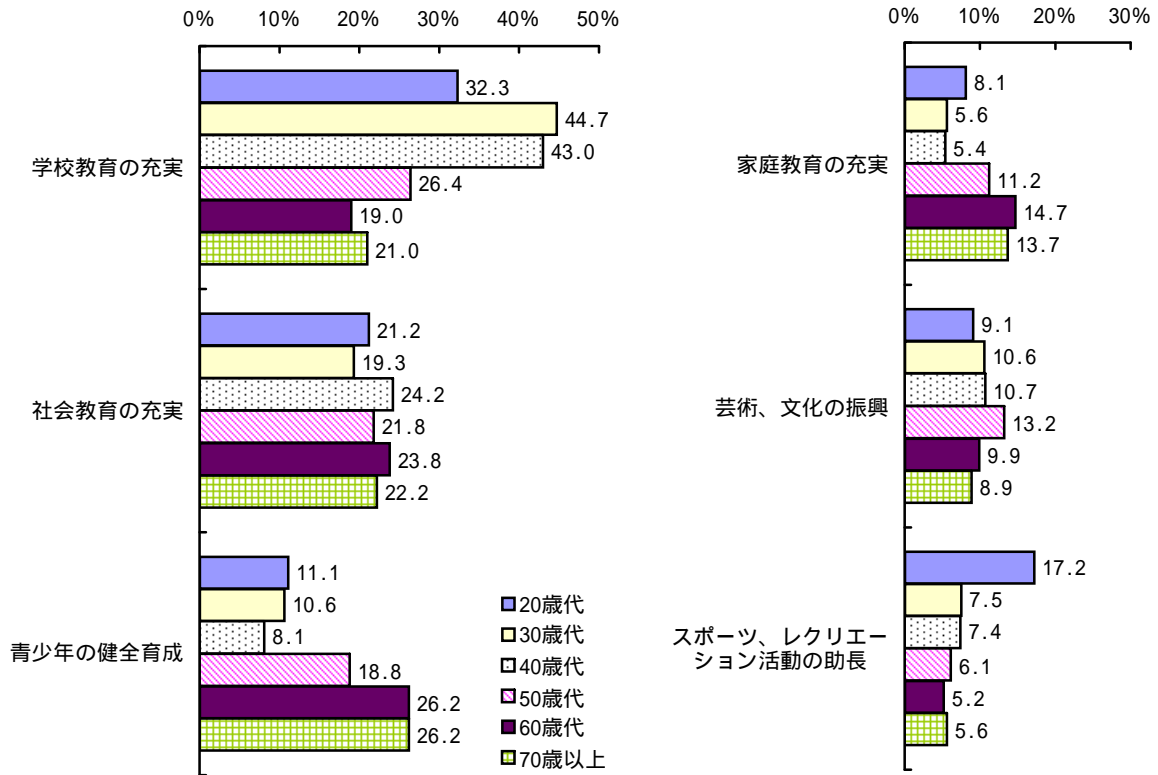
また、「社会教育の充実」、「スポーツ、レクリエーション活動の助長」と答えた人の割合は男性の方が多く、「学校教育の充実」、「家庭教育の充実」は女性の方が多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以下では「学校教育の充実」と答えた人の割合が最も多く、中でも30歳代及び40歳代では他の年齢層と比較して特に多くなっている。60歳代以上では「青少年の健全育成」が最も多くなっている。

また、「家庭教育の充実」は50歳代以上で、「スポーツ、レクリエーション活動の助長」は20歳代で他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、八幡浜・大洲地区を除く全ての圏域で「学校教育の充実」と答えた人の割合が最も多くなっており、八幡浜・大洲圏域は「社会教育の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「家庭教育充実」と答えた人の割合は宇摩圏域で少なく、「芸術、文化の振興」は八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域で少なく、「スポーツ、レクリエーション活動の助長」は新居浜・西条圏域及び宇和島圏域で少ない。

